

氏名： 大森 美香 (OMORI Mika)  
 所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系  
 学位： Ph.D. Indiana University 2001 年 8 月  
 修士 (心理学) 筑波大学 1993 年 3 月  
 職名： 准教授  
 専門分野： 臨床心理学、健康心理学  
 E-mail： omori.mika@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

健康行動／ストレス／感情能力  
 health behaviors / stress / emotional intelligence

#### ◆主要業績

総数 (6) 件

- Omori, M. (2007). Japanese college students' attitudes toward professional psychological services: The role of cultural self-construal and self-concealment. *Psychological Reports*, 100, 387-399.
- 大森美香 2007 「ヘルスリスク予防のためのコミュニケーション」 (内田伸子・坂元章 編著) 『リスク社会を生き抜くコミュニケーション力』 (9 章)  
金子書房
- 大森美香 2007 「第 9 章 健康増進・予防」 (金沢吉展 編) 『心理療法・カウンセリングの基礎：カウンセラー・セラピストを目指す人のために』 p.215-237. 有斐閣
- Omori, M., & Saito, M.  
The effect of emotional intelligence on the occupational stress and health behaviors among Japanese workers.  
Paper presented at the 28th Stress & Anxiety Research Conference  
B&Aacute;varo, The Dominican Republic. July 19-22, 2007
- 佐々木研一・櫻井満優美・横井真人・野口昭彦・渡辺徹・大森美香・豊田秀樹  
4 領域を有するオリジナルな EQ 尺度作成の試み  
日本テスト学会 2007 年 8 月 25 日 東京

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

- (1) 科学研究費補助金基盤研究 (C) の研究プロジェクトとして、ヘルスリスク行動と感情調節能力およびストレスの関連を明らかにする調査研究を行った。
  - (2) 本学、特別教育経費「リスク社会のためのコミュニケーションの開発」における院生参加型プロジェクトとして、「ヘルスコミュニケーション」に関するプロジェ一般成人の食信念に関する調査研究を行った。
  - (3) 本学グローバル COE プログラム・国際格差領域のプロジェクトとして、健康リタラシーに関する研究を開始した。
- (1) With a grant-in-aid from JSPS, I initiated a research project entitled as "The Development of Health-Promoting Program - Application of Emotional Intelligence." Research activities during the year 2006 include literature review, establishment of collaborative relationship with EI Resaerch, and the development of a measure for Emotional Intelligence.
  - (2) Participating in a project entitled as "The Communication Development for Risky Society," I conducted a project with graduate student. We developed a scale to measure beliefs about eating among general population.
  - (3) As a program member of the Global COE program at Ochanomizu University, I initiated a project concerning health literacy in order to explore international disparities in health from a psychological perspective.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

臨床心理学および健康心理学に関する授業・研究指導を行った。大学院においては「健康心理学特論」「健康心理学特論演習」「メンタルヘルス論」を担当し、成人期の心理的問題の実践や科学的研究の動向について授業をすすめてきた。学部レベルでは「臨床心理学演習（基礎）」「臨床心理学演習（応用）」を主として担当した。

研究指導は、卒業論文4件、修士論文2件、博士論文審査（副査）を2件つとめた。

I taught classes related to clinical psychology. Graduate courses that I taught were Health Psychology, Seminar in Health Psychology, and Seminars in Mental Health. I put more emphasis on research than on particular intervention techniques in these classes. Undergraduate courses involved two seminar in Clinical psychology.

The theses that I chaired during 2007 involved four senior theses and two master's theses. I also sat on two dissertation committees.

## ◆研究計画

感情能力と行動制御の観点からヘルスリスク行動を明らかにし、予防に有効な介入方法の検討を行っていきたい。

2008年度に向けて、感情能力テストの有用性および感情能力のアウトカムに関する研究を計画している。それにあたり、人材開発を主たる業務とする企業と共同研究を行う予定である。

## ◆メッセージ

臨床心理学は、心理的な問題の成り立ちや治療の方法に関わる領域ですが、広範な心理学の基礎知識のうえに成り立っています。臨床の場所では、個人の問題を理解し、どの方法がよいのか仮説をたて、治療法が効果的なものかどうか検証できることが求められます。こうしたことは、科学的な心理学研究法を学ばずには獲得できることではありません。

基礎的な心理学の知識と科学的な心理学の研究法をしっかり勉強していただきたいと思います。